

平成24年度病害虫発生予報第5号

平成24年8月1日
愛知 県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	やや少ない	全域	7月下旬の葉いもちの発生量は やや少ない 8月の気温はやや高い 8月の降水量はやや少ない	- - -
	紋枯病	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はやや少ない	± -
	白葉枯病	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はやや少ない	± -
	二カメイガ	やや少ない	全域	7月下旬の被害株率はやや低い 予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	- ± ±
	セジロウンカ	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	トビイロウン カ	平年並	全域	7月下旬現在、発生を確認して いない(平年並)	±
	ツマグロヨコ バイ	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	斑点米カメム シ類	やや多い	全域	7月下旬の発生量はやや多い 予察灯による誘殺数はやや多い	+ +
	イチモンジセ セリ(イネツ トムシ)	平年並	全域	7月下旬の被害株率は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
イネ	フタオビコヤガ(イネアオムシ)	やや少ない	全域	7月下旬の被害株率はやや低い 予察灯における誘殺数は平年並	- ±
	コブノメイガ	やや少ない	全域	7月下旬の被害株率はやや低い 予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	- ± ±
ダイズ	ハスモンヨトウ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±

・防除対策

〔イネ・斑点米カメムシ類〕

7月17日発表の「斑点米カメムシ情報第2号」を参照してください。

・留意事項

いもち病の発生量はやや少ないですが、発生が多いほ場もあります。詳細は、本日発表の「いもち病情報第4号」を参照してください。

セジロウンカの発生量は全体的には平年並ですが、発生量が多いほ場もあります。ウンカ類の飛来・生息状況は、本日発表の「ウンカ情報第3号」を参照してください。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、現在のところ概ね平年並に推移しています。詳細は、本日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号(ダイズ)」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	黒点病	少ない	全域	せん定枝の孢子形成量はやや少ない 8月の降水量はやや少ない	- -
	ミカンハダニ	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	チャノキイロアザミウマ	やや多い	全域	7月下旬の防風用のイヌマキにおける払い落とし虫数は平年並 黄色粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	± +
ナシ	うどんこ病	やや多い	全域	7月下旬の発生量はやや多い	+
	ハダニ類	やや少ない	全域	7月下旬の発生量はやや少ない	-
	ナシヒメシンクイ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
モモ	せん孔細菌病	やや少ない	全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はやや少ない	± -
	モモハモグリガ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 7月下旬の被害葉率は平年並	± ±
カキ	うどんこ病	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	カキノヘタムシガ	平年並	全域	第1世代幼虫による被害果率は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
果樹共通	コナカイガラムシ類	やや少ない	全域	7月下旬の寄生結果枝率はやや低い	-
	カメムシ類	やや多い	全域	予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 7月中旬のヒノキにおける寄生頭数はやや多い スギ、ヒノキ球果量は少ない	+ + +

・防除対策

〔ウンシュウミカン・チャノキイロアザミウマ〕

本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第4号」を参照してください。

〔ナシ・うどんこ病〕

ベルコートフロアブルやナリアWDGなどで防除しましょう。農薬防除を実施する際は、収穫前日数に注意してください。

〔果樹共通・カメムシ類〕

6月15日発表の「病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

・留意事項

モモでは、ハダニ類の発生がやや多いほ場が見られます。早期落葉を防ぐために収穫後に防除を行いましょう。

果樹カメムシ類は、スギやヒノキの球果を餌として増殖し、それらが餌として適さなくなると果樹園に飛来してきます。7月中旬のヒノキ口針鞘数調査から、例年より早く8月上旬から果樹園へ飛来すると推測します。詳しくは、本日発表の「果樹カメムシ情報第4号」を参考にしてください。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	オオタバコガ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
野菜共通	ハスモンヨトウ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±

・留意事項

豊橋市のキャベツほ場に設置したシロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数が平年に比べ多い状況です。8月以降はチョウ目害虫が急増する時期なので、ほ場での発生状況に注意しましょう。

アブラナ科野菜では、ハスモンヨトウ、ハイマダラノメイガなどの加害を防ぐため、育苗時には農薬による防除だけでなく防虫ネットなどで覆い、成虫の侵入を防ぎましょう。

イチゴの育苗床における炭疽病の発生量は平年並です。8月は本病が発生しやすい時期です。排水対策をしっかりと行うとともに、発生を確認した株は速やかに処分しましょう。うどんこ病の発生量は平年並ですが、一部で多いほ場があります。多発すると抑えることが難しくなるので、早めに防除を実施しましょう。

トマトでは、コナジラミ類の発生が増加する時期です。TYLCVの感染を防ぐため、育苗時、定植時には寄生の有無を確かめるとともに、タバココナジラミに効果のある粒剤を施用しましょう。また、侵入防止対策として、施設開口部に防虫ネット（目合0.4mm以下）を設置しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キク（露地）	ミナミキイロアザミウマ	やや多い	全域	7月下旬の発生量はやや多い	+
	オオタバコガ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±

・防除対策

〔キク（露地）・ミナミキイロアザミウマ〕

ハチハチ乳剤、コテツフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

キクほ場に設置したオオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は豊川市で7月第4半旬に急増しました。例年8月以降発生が増加するので、ほ場での発生動向に注意してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台7月27日発表）

予想される向こう1か月の天候

東海地方では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は高いまたは平年並の確率ともに40%。降水量は少ない確率40%、平年並または多い確率ともに30%、日照時間は多い確率40%、平年並または少ない確率ともに30%です。

週別の気温は、1週目は高い確率50%、平年並の確率40%、2週目は平年並または高い確率40%、3～4週目は平年並の確率40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率

〔気温〕 低い：20% 平年並：40% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%

農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）

今年度の重点事項は次の3つです。

- 1 農薬ラベルの十分な確認
- 2 農薬の飛散防止
- 3 農薬の盗難・紛失等の防止

農薬を使用する前に、ラベルの内容をよく確認し、使用方法を守りましょう。

農薬の飛散防止に努めましょう。

- ・防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
- ・散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
- ・風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
- ・飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

- ・農薬は、「普通物」と「毒物」「劇物」を区別して、鍵の掛かる場所に保管しましょう。
- ・農薬散布の準備中も、畑やハウス、自動車などに安易に放置せず、適切に管理しましょう。